

学校教育目標 「学ぶ楽しさ 生きる喜び 瞳かがやく浅小っ子」

～特認校「失敗こそ成長のエンジンだ！」～

合い言葉「浅内小は家族」



あさなひ

浅小HP

令和7年3月13日（木）No.30

文責：校長 三洲 龍太

未来への賛歌～8名の巣立ち～



先週、卒業証書授与式が行われ、8名の卒業生が本校を巣立っていきました。今年度、本校は「浅内小は家族」を合い言葉に、全校児童が、本物の家族のように、毎日なかよく活動してきました。その家族を支え、引っ張ってくれたのが、家族の長男・長女である六年生でした。皆さんが何気ないおしゃべりをしながら廊下を歩いているだけで、休み時間に体育館や中庭で下級生と一緒に遊んでいるだけで、学校全体の空気が、なんとも言えない暖かさに包まれていました。そして、「浅内小は自分たちの学校だ」という思いをもって活動し、学校はもちろん、保護者の方々や地域の皆様にも元気を与えてくれたこと、本当に感謝しています。

式中、在校生が、卒業生への感謝の気持ちを込めて、歌や呼びかけに全力を尽くす姿にも胸が打たれました。特に、最後に全校で歌った校歌は、今年度、私が聞いた中で最も美しいハーモニーを奏していました。



私の祝辞では以下のような話をしました。

「中学校の三年間はあっという間に過ぎていきます。大人に少しずつ近づく大事な三年間となります。よき仲間、よきライバルをたくさん作り、互いに切磋琢磨しながら、高い目標に向かって努力してください。大人になるまでには、本当に辛く悲しいことを数多く経験します。そんなとき、ここにいる浅内小学校を一緒に巣立っていく仲間が力になってくれるはずです。仲間と共に、辛く悲しいことを乗り越えたとき、少しずつ少しずつ強い自分が創られていきます。ずっと皆さんのことを、浅内小の家族一同応援しています。」

そして、式が終わり、全校で卒業生の巣立ちをピロティで見送りました。その際、先日、お披露目した 150 周年記念ソング「Family」を BGM として流しました。私が、アーチをくぐり抜けた卒業生に声を掛けていると、在校生の大きな歌声が聞こえてきました。「5 年生の声かなあ。」と思っていると、まだ練習したことのないそれ以外の学年が大きな声で歌っているのです。私たち教師が指示していないにも関わらず、子どもたち自ら歌い始めたのです。このサプライズに感激しました。そして、このサプライズが、卒業生の巣立ちに花を添えてくれたと思います。

穏やかな春の日差しの中、本校らしい温かい雰囲気の中で、卒業生の巣立ちを見送ることができました。卒業生 8 名の中学校での活躍を心から願っています。そして、在校生一同も一つになって、新たな伝統を築いていきたいと思います。

